



目次

会長挨拶	1
設立記念事業 映画『隣る人』を観て、 語り合う会	2～3
お知らせ	4



皆さんは九十九里の最南端にある一宮海岸をご存知でしょうか。明治30年に東京本所～上総一宮間に鉄道が走り、政財界軍人など富裕層の方たちの別荘が数多く開設されました。当時は西の大磯、東の一宮と讃えられたほどです。大正12年に関東大震災で焼け出された子ども達のために、財閥三井物産が一宮町に所有していた別荘地約4町歩が寄贈され、そこに東京都が施設を建てて子ども達を養護したことが一宮学園の始まりです。その後は体の弱い子ども達が生活をしていました。この施設には昭和55年までは小中学校もあったと聞いています。そして今現在は虐待など、なんらかの理由で親元に居られない子ども達約150人が生活をしています。

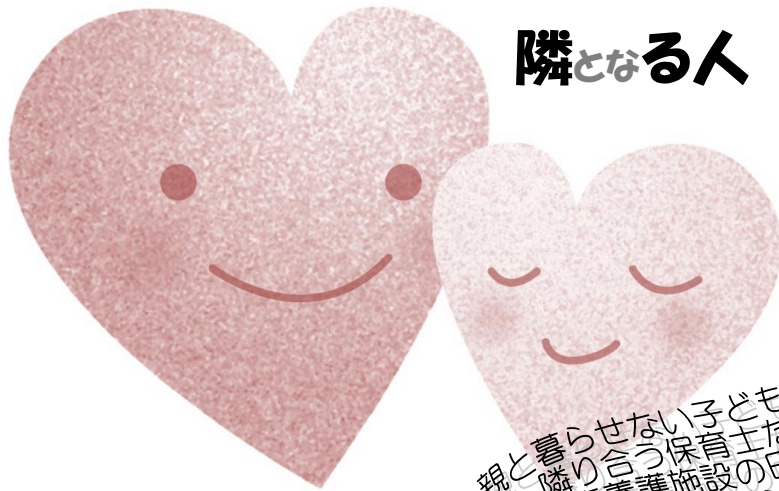
私はこの施設に関わって10年になりますが、あるひとつの疑問を持つようになりました。一般家庭ですと高校卒業し大学に行く人、勤めに行く人、いずれにしても朝起きれば温かいご飯を頂いて「行ってらっしゃい」の言葉に見送られ、帰ってくれば今日何があったかを話せる親がいるでしょう。多分結婚するまでは親の恩恵を受けた生活があると思います。しかし、18歳をもって施設を出た子どもたちは衣食住全て自分でしなければならず精神的な支えもありません。拳句の果てに孤独のあまり自死を試みる子どもも出てきます。同じ国の子どもなのにこんな不平等なことがあっていいのでしょうか。そしてこれは私たち大人の責任なのではないのでしょうか。大人も一人では何もできませんが、一人ひとりの小さな力を集めれば、きっと子どもを支える事が出来ると思います。

心温かな皆様のご理解、ご支援をいただけるならば、こんなに嬉しいことはありません。どうぞよろしくお願い申し上げます。

会長 浅生 隆

◆設立記念事業 『映画“隣る人”を観て、語り合う会』

いっぽ後援会では、なにとはもあれ一人でも多くの皆さんに一宮学園の子どものことを知っていただくことが大切だと考えました。しかし児童養護施設の日常はベールに包まれています。そこで、プライベートを守りつつ理解を深めるために、口頭での説明だけでなく映画という媒体を使おうと思いつきました。心で感じていただく理解です。そして参加者同士が自由に語り合うこと。そんな小さな活動が、まさに『始めの一步』となることを信じ平成 24 年 11 月 19 日に一宮学園内にて開催しました。



隣となる人

親と暮らせない子どもたちと隣り合う保育士たち。ある児童養護施設の日常を追う 8年間のドキュメンタリー。



・・・映画のあらすじ・・・

地方のとある児童養護施設。ここでは様々な事情で親と一緒に暮らせない子どもたちが「親代わり」の保育士と生活を共にしている。マリコさんが担当しているのは、生意気盛りのムツミと甘えん坊のマリナ。本来、親から無条件に与えられるはずの愛情だが、2人にとっては競って獲得しなければならない大事な栄養素。マリコさんを取り合ってケンカすることもしばしばだ。そんなある日、離れて暮らしていたムツミの母親が、再び子どもと一緒に暮らしたいという想いを抱えて施設にやってくる。壊れた絆を取り戻そうと懸命に生きる人々の、平凡だけど大切な日々の暮らしは今日も続く。





・・・退園児童の現状・・・

一宮学園統括主任山口修平さんからお話をいただきました。

①ギリギリでスタート

公的支援である就職支度金だけでは不十分なため、バイトで貯めたお金で準備をしています。しかし部活動を頑張った子どもはバイトができず苦しい状況になります。だからといって部活動を制限することはできません。部活動によって心身が鍛えられ、得るものがたくさんあるからです。さらに高校中退者の困難は想像に難くありません。

②契約の壁

携帯、就職、住居などの契約には保証人が必要です。今は一宮学園が属している社会福祉法人児童愛護会が担ってくださっていますが、それ以前は施設長が個人的に行っていました。

③支えがない

仕事、家事、家計のやりくりなど、一言で自活と言いますが、親からの支援も公的な支援もない中、一人で生活を立てて行くことは並大抵な事ではありません。まさに世間の荒波に放り出されたような心境でしょう。職場での人間関係などに躓き退職をするととたんに住む家まで失うこととなります。なぜならば住み込みの職場の場合が多いからです。行くところがなくお金もなく一宮学園に助けを求めてくる子どもが毎年います。

必要な物はお金と心の支えなのです



・・・参加者様の声・・・

参加者同士が小グループに分かれて話し合いをしました。

- *なぜ虐待は起こるのだろうか。
- *映画の中の子どもと親の関係について。
- *国や県の制度の脆弱さについて、このままではいけないのではないだろうか。
- *お金の支援も大切だけど、心の支えが最も大切なのではないだろうか。
- *映画のマリコさんを観て、子どもとの接し方が学びになった。



・・・協賛者様・・・

(有) あづまや食品・浅生正子・(有) 荒留商店・伊勢化学工業(株)・靴履物いたみや・一宮乗馬センター・いとう理容店・(株) 小高モータース・海洋写真・金澤輪業・和菓子司かねきち・亀屋(有)・(有) 久我薬局・新加藤・スクールIE上総一宮校・高田屋鶏肉店・(有) タカラ鮮魚・千葉県ヤクルト販売(株)・(株) 千葉トーハツ商会・(有) 東金屋・東日総業(株)・富正嘉納園・(株) 秦組・花里守二・堀越精肉店・マルノ洋品店・(有) 宮原製パン所・やまき石油(有)・よねもと整形外科

(50音順、敬称略)

当日は58人の参加があり、一宮町の玉川孫一郎町長も来ていただきました。

皆様大変お忙しい中でしたが熱心に耳を傾け、大いに語り合いをしていただくことができました。

本当にありがとうございました。

●支援のお願い

お金の支援 → 振込先は・・・

郵便局 □座番号 00170-8-663629
一宮学園自立支援はじめのいっぽ後援会

★お手持ちのゆうちょ銀行の通帳から払込いただくと手数料がかかりません。
また、次回から便利です。

★他金融機関からの振込用口座は・・・
店 0 1 9 当座 0 6 6 3 6 2 9

物の支援 → 電化製品、車、土地など。

ミスマッチにならないように事前にご連絡をください。

e-mail : hajimeno.1.2.3po@gmail.com

事務局電話 080-6535-0977 (荒木)



人の支援 → 仕事体験やアルバイトの受け入れ、就職先の紹介など

スタッフ募集！

はじめのいっぽの仲間になりませんか？

パソコンのできる方、会計処理のできる方、社会貢献をしたい方などなど

下記まで連絡をお待ちしています。

編集後記

子どもの役に立ちたい！という思いはあっても、いったいどんな風に進めたらいいのだろうと、文字通り手探りで話し合いを重ねました。中でも不安だったのが『資金集め』です。ダイレクトメールの宛名書きも『どうか思いが通じますように！』と祈るような気持ちで行いました。思いを受け止めご協力をいただきました皆様に心から感謝申し上げます。(ひで)

一宮学園自立支援はじめのいっぽ後援会

〒299-4301 千葉県長生郡一宮町一宮 389 番地一宮学園内

事務局 電話 080-6535-0977 (荒木)

E-MAIL : hajimeno.1.2.3po@gmail.com

<http://ichinomiyaakuen.jp/hajimenoippo/>